

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	当別町			代表者名	後藤正洋
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	企画部デジタル都市推進課	連絡先電話番号	0133-23-3767
担当者役職	主幹	担当者氏名	碓井洋寿	連絡先E-mail	
住所	061-0292 北海道当別町白樺町58番地9				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	連絡先E-mail

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	当別町デジタル関係人口及び雇用創出事業
概要	当別町において、デジタル技術を活用した関係人口創出と企業誘致や雇用促進を図るために、テレワーク、ワーケーション、アイデアソンの導入手法を学び、当別町での実施に向けての支援を求める。		
支援を求める分野	働き方 テレワーク		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年7月25日	支援・助言(実地)	9時00分	16時45分	60
				活動時間（分）	405
2-2. 派遣場所	会場名	当別町役場		最寄駅	当別駅
	所在地	北海道石狩郡当別町白樺町58番地9		最寄駅からの交通手段	徒歩5分

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	上前 知洋
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	アドバイザー上前氏の立科町での社会福祉型テレワーク、タデシナソン、立科WORK TRIPなどの取り組みについて具体的な経験をもとに、工夫するポイントや失敗事例、運営方法などについて具体的なアドバイスをいただいた。 また、社会福祉型テレワークは、地域社会のデジタル化を進めるにあたり、ITフレンドリーな人材育成の手法としてテレワークは効果が高く、今後の地域社会のデジタル化を進めるにあたり、良い知見を得ることができた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	4人
	属性	自治体職員	住民
	人数	3	0
		1	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	北海道医療大学の移転により、学生数の減少が予想され、地域の活性化やボランティア活動の担い手不足が懸念されている。大学移転後の跡地利用が未定であり、地域の経済やコミュニティに影響を与える可能性がある。 地域経済の活性化の1つの取組としてアイデアソンを企画しており、開催が来月に迫っていることから、スムーズに開催を進めるための具体的なアドバイスを必要としている。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	当別町における住民の雇用創出と地域経済の活性化を図る。 成果の過程として、短期的には、アイデアソンの参加者募集を強化し、提案されたアイデアが実際に事業化されることを明確にすることで、参加者の動機付けを図る。 高校生や大学生の参加を促進し、地域の課題解決に向けたアイデアを集める。 企業向けのエンゲージメントプログラムを提供し、企業のニーズに応じたワーケーションを実施する。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的に記入下さい)	立科WORKTRIP（ワークショップ）について、企業と地域が連携するワーケーションや開発合宿の成功事例を学び、宿泊施設と自治体が協力して運営する仕組みや備品貸出の効率的な取り組みについて助言を受けた。また、ターゲット層の設定やワーケーションの分類、企業が得られるメリット、コンシェルジュの役割の重要性について具体的な説明を受け、企業の課題解決型コンテンツの必要性和地域資源の活用方法を理解した。加えて、失敗事例からの教訓や目標設定を含む企業との連携の進め方についても学んだ。 タテシナソン（アイデアソン）について、地域事業者の課題解決を目的としたアイデアソンイベントの運営について、多様な視点でアドバイスを受け、実施内容や成果、課題を整理した。具体的には、プロと学生の協働による事業者支援の手法、広報活動の工夫、運営面での支援体制構築におけるヒントを得た。 社会福祉型テレワークについて、取り組みの具体的な説明を受け、当別町において導入するポイントや連携などについて議論した。テレワークのターゲットを社会福祉の枠に捕らわれない層に拡充する	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)	アドバイスを受け、来月開催に向けた当別町アイデアソン（トベソン）の具体的な運営改善のイメージがまとまった。失敗事例も参考にし、アイデアソン参加者側の視点にたった対策案が明確になった。また、中長期的な視点においてもワーケーションやテレワーク等による雇用創出、就労支援、人材育成などの地域課題に対する方向性のヒントを得ることができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	アドバイス支援を元に、来月開催予定のアイデアソンに向けた運営改善を実施する。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください)	ワーケーションや地域福祉型テレワークの導入については、意見交換に留まり、事業化までは進んでいない。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果について記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由を記入下さい。	
	特になし	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	発展的かつ持続可能なまちづくりに向け、当別町の未来に向けた課題をビジネス視点で解決するためにアイデアソンを成功させる。また、来年度更新予定の総合計画に、ワーケーションやテレワーク等を活用した地域課題解決の計画を含める。	
4－4. 事業の最終的な目指す姿	当別町内において企業のワーケーションやテレワークの実績を作り、住民の雇用創出と地域経済の活性化を図る。 この事業の結果、安定雇用の確保、生活基盤の強化、新たな人脈やスキル向上による自己成長などにより、住民の生活にさまざまな形でポジティブな影響を与え、地域コミュニティ全体の幸せに寄与することを目指す。	
5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		
掲載許可	☐ 掲載可	
https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past year all houkoku/		
なおくその他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください		
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子		
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。		
		